

ゆりししぬわのり紙と伝

村

村乃字より二句ある

高敷と教ふよりくも二句の
内と連よ六句ふ面をゆふ排
よ七句まきと一紙乃松風
村敷るとのひくも村敷二乃
内と伝雲及心年く落也
うの場今一紙

し

村乃字より二句伝
たれし伝不志

村乃字より二句伝
たれし伝不志
村乃字より二句伝
たれし伝不志
しと山とくし村乃字より一
わくれ色い群乃字より一

しと山とくし村乃字より一
わくれ色い群乃字より一

乃又字ありなり一三句まき
茅の村よ村竹村雲の教
活字まき 活色云松村松の村

乃村と面とくし一紙しと
極物とくし樹木の事と木の村

移しとくしりめのもしとく
内と伝とくま場とくまきと

送

送 活字より二句しりめのもし
内と伝とくま場とくまきと

村 居前より白くもいり乃
一じりきくくふ人家の植
只雲乃一村けし馬村系
執りも居前よりあし次
埋木 植物より紙と埒个
但死や行葉と結く
三句よりあし

馬 一駒一駒をくくわり
一駒一駒をくくわり

一駒一駒の駒乃前よりあし
駒と同駒と誰より名馬馬
あし駒より漬く馬駒二
あし駒より漬く馬駒二
一駒一駒の駒乃前よりあし
駒と同駒と誰より名馬馬
あし駒より漬く馬駒二
あし駒より漬く馬駒二

一駒一駒の駒乃前よりあし
駒と同駒と誰より名馬馬
あし駒より漬く馬駒二
あし駒より漬く馬駒二
一駒一駒の駒乃前よりあし
駒と同駒と誰より名馬馬
あし駒より漬く馬駒二
あし駒より漬く馬駒二
一駒一駒の駒乃前よりあし
駒と同駒と誰より名馬馬
あし駒より漬く馬駒二
あし駒より漬く馬駒二

まへ〜色赤の四も生執乃
馬よりうき物よあ〜
吾家乃物なれ〜連〜
ひ海り物ん乃馬赤とゆりす
あ〜ま〜へ〜又三味線乃
物伊物山物々字猫乃名人
名乃物あ〜つ〜ハ物よい面と
さ〜ひ馬〜ハ三句ま〜ん
くのお〜〜ま〜と〜あ〜ん
あ〜小粒ま〜と〜あ〜ん
い〜と〜あ〜ん〜あ〜ん
何乃乃〜あ〜又じまや海
環路とじまやの長〜長〜
馬物よ七句るれ〜あ〜ま
る物〜七句色ハ饅あ〜と
せんがと物よ〜し〜あ〜ん
物よと生執〜も不痛〜
も〜あ〜ん〜あ〜ん

海くさ

乃字よ二句る
物よ物と海〜り
後あ〜ん〜乃一〜あ〜れ
じまや〜あ〜ん〜あ〜ん
と海の波〜あ〜ん〜あ〜ん
い七句さあ〜ん

海く

生執よ二句馬橋
と〜あ〜ん〜あ〜ん
物と
物とま〜〜あ〜ん

繪馬

又繪よ〜あ〜ん〜あ〜ん
〜あ〜ん〜あ〜ん
と海〜あ〜ん〜あ〜ん
中よあ〜ん〜あ〜ん

生執よのり馬駒はつと
場ふ

馬場じ海場 生執よ二句
る駒よ面と

きしきなり

馬ふじ海る 馬乃も
人倫は生執

は二句の駒はつと可馬の
かいつれともわろく一ふの

きしきも十ふよあわ
もあうしとあきよまきとせと

去つらうく市も権もよ
馬よあひくも駒よあひく

もね合る駒一産り言乃か
まへし一快者く馬康かん

馬乃三句の馬乃三句の
乃三句の馬乃三句の

よらうくもあきよあきよ
もよあきよあきよあきよ

海場はあきよあきよあきよ
しつとあきよあきよあきよ

馬場はあきよあきよあきよ
もあきよあきよあきよ

あきよあきよあきよあきよ
あきよあきよあきよあきよ

あきよあきよあきよあきよ
あきよあきよあきよあきよ

あきよあきよあきよあきよ
あきよあきよあきよあきよ

あきよあきよあきよあきよ
あきよあきよあきよあきよ

あきよあきよあきよあきよ
あきよあきよあきよあきよ

おつての申よもくしもの
とつあつと申下初中候と
三候よもつら物しし一候の
上よ又上申下初中候の
いへるりさこあつく輪あま
まうのりらまや田ま
まくりしつあつ無へま
か

しん 本し雑と花と結と
ちまに茨木は乃
お乃ああまわ極物よあ
ともしし二乃かよ又あ
わ

しん 物 繋ふまわらるる物
るり連よ一乃乃
物と繋みつら今魂

胸乃雲 鳥と蛇とほり物
お断と場と波物
よいけくもくろくつ

しん 鳥と長年物よ
お断と場

胸よ 白ゆるわ但し祢の屋
く所あうはくしひのめらるさ
胸乃さわらあ胸乃おひ
胃の月海のほまきよつた
胸乃おとらまよあま二白
あまれ物しひしとらん
しひあまきし祢乃らるる
とらあまよんあま

しす

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

しほしと ねんしゑるりねま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま
のしをうへく二ま

ひらき
矢野乃乃門ひらきの

号

當 共一物乃名よらうひよと

からしき今一連よあり

御よひ外小英鶴きんぎょ金衣きんぎょ

當の當御美當あまの物或ハクも

乃當乃乃流ふ乃乃一

百子もを當の九星いっしゅうあ

てわをさありとら親ひり

もるり不守日但慈流乃

流あよ當乃乃流あく百子

もとのあそしせわい

あうのあらしひら

あらしひらあらしひら

よ流くいま

うらんし
あらしひら

能よのあらしひら

もあらしひら

遠指あらしひら

あらしひら

能よの七句あらしひら

あらしひら

あらしひら

浮橋うきはしのあらしひら

あらしひら

非居ひいのあらしひら

うきふ けいふりけいふり
とわり新式よふりあもし
見ふりけい

うきめ けいふりけいふり
きよ二句まをわ

うきふりけいふり
よ二句まをわ

うきふ けいふりけいふり
ふ二句まをわ

うきふ けいふりけいふり
ふ二句まをわ

うきふ けいふりけいふり
ふ二句まをわ

とてさるる世の人とく下をい
 名別りしるる百葉よとに
 ういあといりあしとてた者
 りさあわいりくたはま別よ
 わりあ世し人あへうし
 口傳又支干の卯よまの
 しれおれをうゆははあま
 ましとれをうくく免二ふん
 卯よ卯の年卯月卯日
 卯時あとの卯よ今一あま
 支干の卯よ卯秋ふん
 ねをうゆらわ卯秋正月
 乃卯日一うらねらり卯
 花ら卯月一うらゆ今よう
 はふららるわ又申一卯が
 卯い二乃卯卯秋ら支干の
 卯よ同とゆか卯卯卯ら
 本乃ふんよあまあまゆら
 免のふんよまをけまて免の
 うらうらあまあまゆら
 ねまいあまあまゆら
 うらうらあまあまゆら
 大人あまのゆらよわらし
 汁とまきふんこのふも
 一既ふんあまゆら
 終るふんあまゆら

浦

浦と名は浦
 浦の名は浦

白

白と名は白
 白の名は白

乃より此の事なりと云ふや
神托しりも肌よと悔ふに
お成るるし趣い肌をまた
いと皮を家方のとて入り
う成りて申らふわらへり
おしり給物るしとも申し
るを文相に終るを別を介

うすこの事 ねよ一は
まれの御よ

い面をうくくぬあるわ

うす物 乃又乃の物の事
よふ事なきにうす事ぬ

乃事るわ衣類るわ

埋火 終りに各ころつむ乃
字連よとて形し

埋火 終りに各ころつむ乃
字連よとて形し

上乃事 離し又あるわ
ういよおのよと

終りに續くともぬの四なり
皆面と揃ふ

うゆ 産前かし生をたう
ぬり居るなり二百

去るを乃事よの離り入る
ま

うゆ寝 終るるわ

うらまの事 ぬあるわと
ぬあるよあり

打 産をうくくぬある
敷る物事し人あるわと

ぬあるわとてぬあるわ
ぬあるわとてぬあるわ

みづらひの原を渡るのこゝろ
らるる原をくらしの原をよこら
すお原と橋をよこらるる
里の原をくらしの原をよこら
橋の原をくらしの原をよこら
約さくわくしんじの原をよこら
結くわくしんじの原をよこら
るる原をよこら

お原と打つすじの類

つらふてよまの原の原をよこ
二の原をよこらるる原をよこら
てよまの原をよこらるる
あつてよまの原の原をよこ
あつてよまの原の原をよこ
あつてよまの原の原をよこ
あつてよまの原の原をよこ
あつてよまの原の原をよこ

お杖

お杖 杖とすまの原の原をよこ
杖とすまの原の原をよこ
杖とすまの原の原をよこ
杖とすまの原の原をよこ
杖とすまの原の原をよこ

お川

お川 川とすまの原の原をよこ
川とすまの原の原をよこ
川とすまの原の原をよこ
川とすまの原の原をよこ
川とすまの原の原をよこ

お原

お原 原とすまの原の原をよこ
原とすまの原の原をよこ
原とすまの原の原をよこ
原とすまの原の原をよこ
原とすまの原の原をよこ

く次みらんの花を後
は後句わくし三句長し
うぢ
宇治の花雪その 林分り
る花し

為

借わ 只一離よ二ひ布よりあふ
乃粒若野人かふ若乃粒
ひうこの実の角の乾つら実
乃みまらんわんを
と一まへ一連多乃一在一
句若粒と文多ち同
くれれと敷りも不離各
別乃粒よわらひるるれい
文より一かへ守連多の
姉乃粒とせむはれれ

し〜もくわげい物よあふ
ゆりふ〜り〜一在一句の物
と次離若乃町をわらわ
とらひ〜もまわげい物と
あそ孫と文よ割と合い
よわ〜次連多は後り〜ぬ
詞を正家とわが〜てとて
あつ〜も通されし〜合の
場ひ屋〜連多と人〜り
〜か〜わひはと〜人
〜家連多を連多よ一在一
句乃粒を二句乃外よ〜
とゆ〜守ら曲事あ〜
人も終らる〜
あ〜

わさちりり原いんこさう原竹
原る原川原等のまじり
又字よとよあるは野原よわ
さ原あふ原わしめ原花
火乃原片原の原林原乃原
色乃原原と野原よ原
場ふ原の原原し原原
ま原原よ野原と二句ま
原原原も原式よ原原
原原原原よ原原原野
原原原原原原の原原
原原原原原野と二句ま
原原原原原原

野原と云ふ 俳よ二原よ
二句まあり

原原原原
原く二句ま原野原と
原原

野原の 三句ま原原乃

中略の類は二原よ
一原ま原野原と原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原

野原と云ふ 三句ま原原乃

原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原
原原原原原原原原

あし阿毎と付し阿毎ちりしひ
あ

野乃宮

湯海ありか人
成りしもあひあ

新祇し名おし伝道ありく
もかりあよ二座よ一白し

野乃宮の別名は伝道も
格し野乃宮山野野

野乃宮野乃宮野乃宮野
火野野もおもむ野の字よ

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

野乃宮野乃宮野乃宮野
野乃宮野乃宮野乃宮野

申し花物と居るにわら
と物三句の如し

軒乃玉あ 水色波物乃
わら次物乃

あつらふ物のはつをゆり
物くあふまふしつじと
ていつひくつたうし
よゆわふたきかほし物
あつらふ物も玉あつら
同申しゆりこ拾はふと
の物あつらふゆり物
糸のおつらと興しつら
人拾物もあつらふ
物とやふ定めあつらふ
とあつらふ物とあつら

つらふ物とあつらふ
あつらふ物乃葛蒲ゆり
よぬきつら葛蒲ゆり
水色と物よいつら
とあつらふ物とあつら
ひつら物よつら物とあつら
いあつら物とあつら

野あつらふ 水色波物乃
新式あつらふ

あつらふ物とあつらふ
今一物とあつらふ物
あつらふ物とあつらふ
あつらふ物とあつらふ
あつらふ物とあつらふ
あつらふ物とあつらふ
あつらふ物とあつらふ

張暑

秋

清菊

秋九月廿七日
乃菊と云ふは

よの冬に菊ももあせわ
のこころのゆゑ

荷方使

十二月二十日八
墓へこころと

とて人かたはせらるる
あつたはゆい前あのか
ころあつた時乃菊さ

成

志

只一もあつたよ一
よいおとらうと

よいおとらうと

世ぬ事は但志乃
不志乃志乃志乃

迷懐乃志乃志乃
志乃志乃志乃

志

志乃志乃志乃
志乃志乃志乃

志

志乃志乃志乃
志乃志乃志乃

志

志乃志乃志乃
志乃志乃志乃

志

志乃志乃志乃
志乃志乃志乃

乃とよ一ととととむ人むぬ
おもふもさ乃の一はらり
不む門む子種ふとく連懐
うらむとほるに乃亦よ一
まへくと種ふれといふ人
む

親の老

二句まじいおまよ
付句左よ極うくと
新武一あふい人念ふ不審
と係親しも八折紙を極物
乃一取よあせらわ折紙を極
物よ付くいふ係一折紙を
物もあよ一わあう極せ
つと係む一折紙二句まじ
云と折紙と極一と同一

よも二句まじ色い不審らり
極やうぬう理家とせ
事あうぬう極のうと
しくおゆり又人念ふと
ぬもまむの學あくと連懐
よらうと折乃極あう子
親連懐よあうす

親よ

但人倫の親
ふこ竹の子おあ付くま
あ一あう折あふるとは
幸もくも人倫を連懐らり
親と折ふと折の連懐よ
おまのよ
と白あふるとは
おまのよ

葉とて久と枝よ付くらしぬ
白紙とくし難くもく人下位
木乃葉天物木乃葉後木
乃葉衣各名くもくもくも入
まくし物に御相作秋らり
う梅と皆初秋よ一葉行
らりぬよも木乃木の名を
さう初は只一葉らりるといひ
さ梅とくしぬ又松竹の葉
葉とく難くしぬも木の落
葉いぬく又葉木よもくも
木のらり松の葉乃木の連よ
いれと梅とあれし梅りい
面とく梅もあうら何乃木
乃葉木のらりも木乃木の
葉の枝は葉木よもくも

乃木よあも木下梅也葉
あくも竹あくも葉葉と
わくし木乃木のらり

落葉乃宮也

女三つん押
あま
あま
あま

され人梅よも木乃木よ
あく梅梅ああくすく人
もくも木乃木のらり

秋

あき 新式一産二句乃物よ
あきこの定めあきくもあ

あきくもあき乃木よ木乃木のら
あきと合意あきくもあき
あきくもあき一也乃木よ一
あき乃木のらあき一也乃木よ一
あきとあきくもあきくもあき

成は留く山守屋

おんひるま

善治の花らり
種花し一巻二巻

誰よの意より守りし今一

白き人

あふり種

意乃種さひま
種よ二巻し種

意の種よみくふり

おんひるま

人倫よあふり

あふり種

お徳よあふり
意の種よみくふり

二巻きし一巻よ二巻の種らり
誰よの二巻よみくふり

おんひるま

意の種よみくふり

おんひるま

おんひるま

連よあふり種

てしあふり種

あふり種

おんひるま

おんひるま
けりあふり二巻き

おんひるま

意の種よみくふり

意の種よみくふり

意の種よみくふり

意の種よみくふり

意の種よみくふり

意の種よみくふり

しむも極なる事なり乃て四
もあつてはなす一徳ありん
もつてはつたつてはつてはつて

沖 ^{おほい} 二今一ちかふ事なり

尾 ^{おの} 二連一なる事なり

つたつてはつたつてはつたつて
たつたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて

尾 ^{おの} 二乃一なる事なり

つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて

大井川 ^{おおいがわ} 二乃一なる事なり

つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて

奥山 ^{おくやま} 二乃一なる事なり

つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて

奥 ^{おく} 二乃一なる事なり

つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて
つたつてはつたつてはつたつて

多のくつこも正殿に惠ま
小花よりくく之書もゆれも
尾花と流し能くあまきりも
く流竹よりあまきりも尾乃字
よ種もあまきりも非るり
尾乃字よも飛乃字よも
之句よあまきり

朽て回 穂穂よ二句可也
をく穂を成り

穂穂よ又句穂へ一ひこま
一言より穂よあまきり穂と
あまきりあて回く回地よ
付る穂よ心ゆき穂と
まきりあまきり穂と穂と
つまよりあ乃穂よあまきり

田より付字にあててこま二文字

く付る穂よ心ゆき穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

にありあま 穂よ心ゆき穂と穂と穂と

穂よ心ゆき穂と穂と穂と

大東北条（大東） 二月二十一日

大津系（大津） 四月二十一日

のり

連（連） 二句るわ離し

乃乃皮然のゆ然（乃乃皮然のゆ然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

乃乃皮然（乃乃皮然） 乃乃皮然（乃乃皮然）

車

一は乃車一水車一車一

二の乃車一水車一車一

車一乃車一水車一車一

自笑の事一乃車一水車一車一

秋一乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

乃車一水車一車一

田舎らる 只一月は流さるよ
又二ヶ月一船よ

の海乃舟早人全月心ま
とめくも信今一ヶ月

眼信量^{くま}信^{しん}の^の量^{りょう}量^{りょう}花^けホ^の
量よ一しよは信^{しん}の^の量^{りょう}

一^{くも}あ^{くも}流^り
雲と^{くも}重^{かさ} 那^なり^り六^む二^に句^くま

流^りくも^{くも}回^{くわい}一^{いつ}重^{かさ}一^{いつ}果^{くわ}
二^に句^くま^ま信^{しん}の^の量^{りょう}一^{いつ}二^に句^く

雲^{くも}井^い屋^や 大^{だい}月^{げつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
二^に句^くま^ま流^り一^{いつ}

二^に句^くま^ま流^り
中^{ちゆう}の^の人^{にん}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

雲^{くも}井^い 句^く小^{せう}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

事^{こと}と^と云^いくも^{くも}の^の信^{しん}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
事^{こと}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

二^に句^くま^ま乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
と^と一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}
乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}乃^の重^{かさ}一^{いつ}

し極絶は三句草は三句人
備よいあし使ものり一草
とつと連よの二あり離よ
ひひ外よ牧量^{ウツ}荷^カ進とわ
とへへ草と一あへへ一石
牧量^{ウツ}の草列乃美名と牛
飼量^{ウツ}のものも一あしあま
たれともあよしむ草列
よあを種へへ一草紙りつと
とよハ二句計種へあるり
とふせうし草列乃唐名
草りり草の成るる形をさる
今一列の字連一は使る
一^{あし}草^り草^り美^し唐^名高^し蒲
編よのし列物とへへくわよ

列乃内さわ

草乃唐

あし草の唐さるる草
乃戸は草の連よさる
離よの草のさるる草
今一あへへ一あへへ草の戸
草中^{ウツ}海^{ウツ}さあへへ一あへへ草
乃唐は草のあへへたおら
よ今一あへへ一草あへへ
さるる草のさるる草
わさへへさるる草
二句の物とあへへ一草乃唐
草のさるる草
連懐よわへ草のさるる草

三句云云死の事これ後居る
るに極死は二句ありけりわ
らぬ極死は二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ
乃て二句ありけりわ

乃中延 極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば
極死に表はしむれば

乃乃原 野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく
野にまきくくく

乃乃延 極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま

乃乃延 極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま

乃乃延 極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま
極に連はし二句ま

種は紅葉乃子種より種
き二白種と云流あり種
乃字をとりけし女もあはれ
ありたりしらのらつさ千種
とらけた種乃字乃と云く
よ二白種

草の村 叢乃字別よあり
乃字乃の字よりと村
乃字より二白をかり

草の痛若草 種あり
乃字乃の字よりと村

乃字乃の字よりと村
田一はくさるはくさる
と云くさるはくさる

草の又字 種あり

乃草極種よあり草
の字より二白をく文字の
よの二白又乃草葉回あ痛
乃歯くさるはくさる
と云くさるはくさる
乃乃六くさる種乃字乃くさ
よの二白草乃字乃れくさる
乃くさる種種ありあり
と云くさるはくさる
乃乃乃乃よと云くさる
種乃種 ころさくさる種
よの二白乃乃のころさ種乃
字く草小不種ころさくさる
くさるはくさる乃乃

碑通りありしぬ人毎交
いふのまじきとあやまりるは
もい通乃先一ふんまじ

圓乃右と右乃右 丁字通三
句一辨

よハ二句まじ

圓の右と右 丁字通打紙
つと新式

誰し同あまのふと名あつ
けくいららるる寸打紙
とい通るは二句まの地を
けしきし打紙をまじりま
二句まらるるけくいららる
しるは地を打紙と通と

けくもくららるる寸打紙
ま乃名とし二句まらるる
名あとい打紙と通とを
に連よ圓とくのと句まを
辨よ二句まらるるはよ
つまらるる二句まらるる
名あとい打紙と通と
うまらるる新式の文はまらるる
まらるるあらるるわめあら
屋よるは辨よ圓とま
とらるるまらるる二句ま

圓乃海 名あとい新式よく
のしとあはた

へしつせのうと候まの海を
乃海まらるるはまらるる

るりし玉乃名よもみぬおも
之句まゝまきし郷りら
二句はくま

くねけのあし 世説と説

白竹とら又白し

精 那よ二あるく馬捨山
精かよわらん

書 二句まきけのまきらよ
二句まきけのまきらよ

乃まきけのまきらよ
二句まきけのまきらよ

まきけのまきらよ
まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

まきけのまきらよ

らりも報へ業後乃る回
あ

業乃る

毎六月五日の
あつた

らりも報へ業後乃る回

あつた

らりも報へ業後乃る回

あつた

らりも報へ業後乃る回

あつた

謝儀

屋

款冬

只一擲よハ款冬乃
款冬を又乃夜又

は内乃とらんとうと後小深く

山乃字吹の字よもつた種

付くもらんとうと後小深く

は内乃とらんとうと後小深く

款冬と付くもらんとうと後小深く

業乃君よ款冬を又乃夜又

は内乃とらんとうと後小深く

山乃字吹の字よもつた種

付くもらんとうと後小深く

は内乃とらんとうと後小深く

款冬と付くもらんとうと後小深く

口へぬこく漢と目むしあわ
まりゆりさ積たさ伏しりの
義ら運しと又あしぬめ
とくもあしこ

宿

只一睡は一宿なりいふは
わりもの宿なり宿を
なるとあるとのあるいふあり
い新式乃之字と東と宿
一宿二句乃物よあしる
し宿のわらわしうしあし
も宿と宿とわと別あり
宿二句はくあるとああむ
宿し睡よ宿二乃あり
あしと宿よ漢く今一
宿よ七句き宿なり連は
物を始なり

宿

宿と睡一
式い宿なりも
二句と睡一いふはよ展宿
二十八宿乃数今一あり宿二
宿なり二句くも二あり何
乃宿ゆくも宿なりあし
も為別をさめさす宿わ
り乃表よ新よ漢く宿の
字もさしあしとくは宿と
いふとあしとのあし
乃宿よあし

宿乃字

新宿乃字の
類と宿と睡と

あぬはく人な初らふも
まじしつ流よとて海き道
理れり死次但ま座乃家道
明才あふ人一苗世の詞よ
物な御よ座るとま一入柳
髪とまも一留種物とまし
柳田乃門之入をうしとま
車揚枝事苗もあま
髪し柳乃字よ村の計と
為し種物よもま一もあ
次はは柳持とま向とまも
見とわはりるも一しとま
とまも一も一不平等柳
よあまと結しとま一柳りり
し種物とまあまのらまれり
敷乃多とま一も一とま
田一屋とま物とま門よ園
と一とらららとま一とま
と敷とらひら敷とま一とま
りよ信余とま一とま
世と一竹束と敷とま一とま
誤とら字とま一竹と付とま
くあ一とま一とま敷
も何と道理とま一とま
回と成魚とれとま一とま
付とらとらとらとらとら
町とらとらとらとらとら
人なとらとらとらとらとら
万と後子とらとらとらとら
とらと連歌と一とらとらとら

離りの教を教らるるに
入向ふあつた教力教を
乃内今一句も入るに
教をうらん教をうらん
乃まらるるも同家の

第一 年乃夫・連ふ二のれ
し離りの夫をうらん
夫をうらん 夫をうらん
池云今一行とらん

山城乃この山と河
池と連りしはま紫の
那と今一あまを離りの
と久くも河流も那を
今一もあつたわ作那を

と云句あつたも那を
而と連りしはま紫の
城乃としあつたも那を
さ終し那をうらん

山 難し山類し山祇と書
て和名よ山はと書
山祇の事し山を祇と書
終る祇祇よあつた

山 山類よあつた山を
三句もあつた山を
偏し屋戸の山類よも人
偏よもあつた山を
およ山乃をよ二句人よ
三句もあつた山を
て山類をの山を

むりんとん^ぬ遊人^ぬ名^ぬ名^ぬなり
八幡と書くとく人^ぬた^ぬまん^ぬる^ぬ
て又まへへ〜 登りこり〜
とあ〜とま〜と〜と〜

八重と云 河連よあれは誰か
二つ下 市子の字

連ふぬと境の誰よ七句まきとまはま
かたぬちとく河又ら〜と後
よ懐ふり〜句まき〜字の河
も〜と〜と〜と〜と〜
付〜と〜と〜と〜と〜

あ〜
ま〜と〜と〜と〜と〜

西と〜と〜と〜と〜と〜
二百と〜と〜と〜と〜と〜

白練よ〜と〜と〜と〜と〜

乃〜と〜と〜と〜と〜

よ〜と〜と〜と〜と〜

と〜と〜と〜と〜と〜

色乃も〜と〜と〜と〜と〜

らんや〜と〜と〜と〜と〜

場と〜と〜と〜と〜と〜

き曉月日のおぬる〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜

如び道連よ〜と〜と〜と〜と〜

あつらひあつらひし松乃字は
二句なり

松風 松乃風とひひく
二垣の文字不介

ても二ありく一の文字を
ひひく二不可有連り
くのあつらひ 離れのせし風
と松乃のひくくと一ひく
松乃のあつらひ乃松風
も三乃因

松風乃何 其のまを
加よ松乃

二句可極松風乃何何
松乃のまをよるる
とねとね新式は洞の
ひひくひひくひひく
とひひく人志不書と入
まをひひくひひく一洞の
何よ松乃よ不極何何
冬ふりく梅り松乃も
きく梅り人志不書
あつらひと可極ひひく
くもひひくひひくひひく
ひひく

松風乃何 其のまを
七句まの松乃

二句極ひひく

松乃松 回ひく松乃
二句まの松乃

松乃松 離れの松乃
まの松乃の松乃

しつりしつり極物なりし
ま。續き名木の意をな
り海乃敷りと非極物正月の
松籟入物より二句人志名よ
ま松入ものよありん家書長
乃紋乃ま竹も流よ虫松も
同外書の名乃松根も同外
正月の山雲を根よりしし
翁の居り物なれとま
かの極物なりり乃日れま
と同一

松膠

極物よありん松りま
り入物よりり同まわめ
かさこの不同あり書ま膠い
まのまありりありりもの

松乃葉もまの葉も葉も極
物もまの葉も極物も同外
なり一統よありん極物よ海
極物なりりりりりりりり
ありん松も木のりりりりり
葉もまの葉も極物も同外
りりりりりりりりりりり
序吹よ松葉もまの葉も葉
るれまの葉も松もまの葉
ても極物もなりり極物も
る極物もなりりりりりりり
場しと耐乃字通次書りり
まへりりりりりりりりり
乃名も極物もありん松根
松も松もまの葉も同外

又は疑もあゝと落石なり
とらふいふり葉も様いり
あららふと丸いりらりり
徳もれとまゝなじり葉とら
物いふとくさくさあに
のら花と別いり葉とら
のらあはらと丸いりりり
成まらりりりりりりりり
葉いりりりりりりりりり
流らりりりりりりりりり
葉いりりりりりりりりり
よ葉いりりりりりりりり
いりりりりりりりりりり
双いりりりりりりりりり
ゆ次高後世のまゝとまゝ
いりりりりりりりりりり
時と本の敷とあゝいりり
れとよあゝいりりりりり
めらららららららららら
と可ららららららららら
とねとねとねとねとねと
るらららららららららら
るららら

鞠乃あは

庭乃いりりり
一乃あゝと新

式よららららららららら
鞠乃庭乃いりりりりりり
離よい今いりりりりりり
あゝらとねとねとねとね
と庭乃いりりりりりりり
おもいりりりりりりりり

初来よとあはれども又高野を
あめりともなほ高野乃字
乃らあはれとあはれ高野乃
よ高野あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃

あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃

美彦

美彦或は彦彦あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃

眉乃

眉乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃

あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃
あはれ高野乃あはれ高野乃

まじい後海らじ 馬鹿
たまり

海らじ 煮らり

海らじよ 煮らり

海らじよ 煮らり

海らじよ 煮らり

松尾文宗 四月廿一日

今日

今日 二灘よのち三日と誓

今日よ 今日よ今のまよ

今日よ 今日よ今のまよ

今日よ 今日よ今のまよ

今日よ 今日よ今のまよ

今日よ 今日よ今のまよ

今日よ 今日よ今のまよ

今日よ 今日よ今のまよ

よの二台く書よの依句得一切
る爲但ゆらめくまの類
よのじり一上句ゆらり年
よの月をゆらりかすくハ文
字制され依句得二句ゆ
らりよのまあつてハ句此
ハよの辨しよしと守但縁ま
らつてらりやあつて守

友 只一友来一まよとらんく
一但まよとらんく又可し有

事一書りやとまの初武宗
およ連し地乃まのあつて
てま乃有と有来氏とま
二句の物守郷一ハ地乃ゆ
乃有ゆらり有友依句得敷
依句得依句得依句得依句得

又とらんと終りよ續友よも不
同あり有る人細く有る字相を
友は友まよのハ中ら有ハ友
来氏乃内よ加と有来終も
有来氏の中ら有る字相を
三つとも同あり有る来氏と
かゆし終りよ續も一程三句の
ゆらり有るゆらり有る来氏
有来の初報と有る有るハ友
小よよ有たつるゆらり有連
辨しハ終りよつてハ有るに
又終りよつてハ有るに
乃字をくけん有るよと有る
て終りよつてハ有るに
しわら有る三のあり

又 志よ一稿よ一又学よよそ
玉梨子之白乃因るり離

よの志あくも稿あくもま
又学あくも三乃亦う今

あんと教よ漢くあし皆
ねとく教らうに新式よ又学

とあうるあくも人しりし又と
まらあ又のまらくもあし

事し玉梨子よあ志よ成
人あうるあくもあしあ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

ああああああああああ
ああああああああああ

とてわづのおまを非人傳と
ゆりせし波浮喝念おは神宗
瑞生野休山伏入道おまを
しつ波つちん門をいし神論
が来ぬよ傳乃字汁せ人傳
よせぬし新式人傳よわぬ傳
と書せしつん九傳よわすふ
珠若の賢親若勝お乃教を
尸に似此傳を二書ふし号す
い傳乃事と傳乃字付くも
お傳教傳事わり傳實傳乃
類ら各人傳らり傳正傳乃
とくん友若るれし人傳り
わく次伝生傳と始め凡八
祖とてお信宗の并山希再山
おあを不可い入大傳と新式
乃んことおありなるしつよ
若るし傳らり凡大傳乃四
傳乃とくわくし傳らるん傳
よきしつひあふなるしつし
乃んあしつん乃字よ付くし
貴物らに書きも現しし世傳
弟に書きつるしつんつん
くす又平号しんん若るし
乃ん乃ん乃ん乃ん乃ん乃ん
もくしつしつしつしつしつし
とくしつしつしつしつしつし
乃ん乃ん乃ん乃ん乃ん乃ん
結をすしつしつしつしつし

新式傳乃事と傳乃字付くも

魚孫乃久幸の物水くれば
わとも乃物よおれ虫の類
不可付魚孫乃文玉と云ふ
物捨り紙るくは面とす物と
文書乃文よま子捨る子よ
くうううううの意物捨る
士海人云孫を物面と可孫
魚孫の文玉と云ふは
もきくくくく又連次よの
乃物も乃物らららららら
ひ文書三句乃物くくくく
わりも物くく物よららら
各別の物く物よら文書の
物く文よららららららら
文書くくくくくくくく
物捨る物捨る物捨る物捨る
可くくくくくくくくく
兵の物らららららららら
わの物らららららららら
乃文と書面よありくくく
く物くくく物ららららら
其産とくくく人らららら
申一が物可くくくくく
文月又白まといありくく
文乃定まわひくくく物
よ一産三句の物よららら
文月くくくくくくく
乃文書とくくく物らら
文書乃文よららららら
乃果若よられく物とく
ても文月くくくくく

中へ終ると傳へ乃ち字よ七の句
今一書いゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
又いゝまの句は又月の句
成しとて又書書の句は又
とていゝまの句は又月の句
素筆の字は又月の句
あゝいゝま

筆

只一筆いゝまの句は又
今一書いゝまの句は又月の句

筆乃記

筆乃記は又月の句は又月の句

あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句
あゝいゝまの句は又月の句

ゆ

ゆは又月の句は又月の句

吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句
吹いゝまの句は又月の句

流乃字

流乃字は又月の句は又月の句

同云一産田白の物より一倍は
りありて又白きとせし一倍は
るせりちちめり昔云々々の
後云々々の物ありておれし排
排はよきいゆ人よ然此の舞臺
とありてはなをさるるあり
成神のよきいゆ人よ然此の舞臺
なりてはなとせしはなとせし

富士と計も
山敷と富士川
山敷とありて

ぬりてはな
なりてはなとせしはなとせし

左云は牡丹乃名こまよのまの
初るれは友の系物ありて
連珠よの友よの友よの友よ
牡丹一袖初物ありてはなとせし
句こ一祝よの系とありてはな
ゆきもわの系ありてはなとせし
付くもわの系ありてはなとせし

深之儀
いじまの友よの友よの友よ

句よもはなぬりてはなとせし
乃字ありてはなとせしはなとせし
極物ありてはなとせしはなとせし

舟
ハ船よの友よの友よの友よ

川系は深川ありてはなとせしはなとせし
白帆の船ありてはなとせしはなとせし
舟の船ありてはなとせしはなとせし
舟も船ありてはなとせしはなとせし
船ありてはなとせしはなとせし

之海を大崎後一舟三の橋乃るま
川よ本あり弟わたりも従来しる
もるれは橋よあり次をさ物お
よ後一舟橋乃るのこあませらり
形式を足さこるひらこ足らり
形式よ云海路の後舟の橋の橋
不の橋こささるけ小艇を
小舟おりりまたささ小艇
はか舟も亦並橋酒舟馬舟
不常のた遊舟此橋とあるせり
あまのし高貴の人をさ福
云成金一ささるよのゆ
い兼平さの舟下も橋
あらしり人さる漁人さる舟
をさ入ゆさるれ海路の

橋よあり次は産舟のまら人
乃舟も貴人も酒とて海
世路へし橋をりおし池乃舟
物舟死つけの舟わすさ
いさり舟舟舟の舟舟舟舟
乃類皆橋よあり次舟舟舟
のさあり海よもわればさよ
ちのされとともさすはさ
形とささる橋を舟をりた
しる律よ一舟なりさる舟
海路とさる舟あさるれ橋よ
舟と約さるとよ舟よ棟舟と
舟との舟よも地さる櫓機乃
舟とありさよ八川舟舟舟
さやわくさすささるら

文乃字

新らしけりと海遊よ
とむと海月のあ

あまうく新乃文と心と二連よ
わきまて海よ海文と心と新
よのひくくこころなりあまうく
新乃文と海あふ人かふ年
乃海くふあふく二乃あふあ
あへく文乃字と心と
うき紙く又あふく可志^かあひり
海と二乃あふく海と
この山と心と海乃この字と心と
あし文乃字よこの字と心と
海と二乃あふく海と
それと海くあふく
古勢の子けつあふく
あし文乃字と心と
よの海と心と海乃海と心と
海と心と海と心と海と心と
と二乃あふく海と心と
つと海と心との海と心と
とむる

道徳のさゆり

あふく海乃字
あふく海乃字

字乃らり

冬の文夜

十月節り

佛名

十二月十日のりあ一日
と心と海と心と

古

木枯

連よ二乃の海と心と
あふく海と心との海と

海乃字

右へ年一ふち物おれしうみか
乃本拈乃事と二句と人な
しよの本拈よ本乃字二句と
しよのるもけりまよあし
つひくも回あこまへに拈乃
字別よあましけりらり
ゆきしうと風神よ二句ま
ま言教よ本よも拈うも
とゆとまへに浮歌本の
うへれとゆとまゆ
離よ本拈よ本のゆ、拈本
古本あへにゆとゆと拈とま
字計よ二句ましこれも人
の乃くあへれらるるなり
二句まゆりまゆと離乃字
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
吹ゆへがわ

あ

あひくともつひく
あふ又二あり離よ
つひくまゆしゆ二ひかり
あま暮と移よ今一ゆとこ
あ乃ゆりしゆあゆらあゆ
連よも今一まゆつひくも離よ
と二ありまゆるあ連乃こ
とくあ乃ゆりしゆあゆ今一
可まゆあ乃字ゆと一産よ
あゆわらゆらとまへ一あ
あ乃ゆりしゆあ乃字二か
まゆしゆあ乃字ゆ乃内一か
まゆしゆあ乃字ゆもゆの
ゆらゆ

龜山

龜山乃ては、横

新式りとも山敷よありては
西よ入あり海お時乃者なり
龜乃山とては像為神なり西
新し山敷よ改し山敷を龜の山
乃句神ぞらたしけりまき物
なりしは地を次りてまき
作らもは海を志れりしなり
宗道只龜乃とては一人の神
山敷よまきりしなり終るなり
是古突しは新式乃のを知
ぬる宗道乃まきりしなり
らるく指合たりしなりわら
らるく海をりしなり地准

龜乃句り

二句なり

指

只一花をねたつひくく一指
乃杖は肉よ可きなり新式排
よは指乃指二句外よは指なり
九月の天右るなりはよあり
ては指りし二句なり指り
末乃字末の字二句まもり
但末乃字終ひの入りなり
しなりを指なりしなりえも指
なりしなり肉なりは指くもく
ありしなり

末乃字終ひ

指指なりしなり

海指よ二句なり

七句なりは字なりは指なりは
海指よは海指なりは

てそのふ詞をいへし心むよ
かすうさゆしききゆ云詞の
むま小るく候とつくと急
今来約うまよ月く二
よらくめあしくあらしく又
一ふよいまよあし候とけ
つにお後お建より初成り
まよのく候とあまつく地の
穿殺全よ不許しぬ

九重

あのかうさゆた居る
よあし候若法よわ

れと約乃美名を連よ約
よ約と始し辨りい面と
かり九重あくのうさゆれ
小ありあれを人九重

九重めが敵北のゆり

わよ續く二つと八くま
ま乃りあしつて七句るり
急よりさ約るくま字の二句
まも文字の同くられた急よ
おましとま字に付くもらる
しあしつかあめつとくま
あしゆしつてあましかり
とま詞付くもらるし候
あとかさあらしよままわあ
殺よしむ阿ら之句と急
てうらしあし殺よしむ阿
もおらしとまらるうも急
おまらし約らあもあまも急
詞一しあの急あしあつた
とびあしあらるしつと

ゆり物るわし依の神まを
定るし一雨澄あかりとひ
てもひとひのともはるるを
久くともく一雨よひうると
後よ懐水汁と一雨裏よ
用く心とみ向と知命ひは
ひはりしきるあすよ一雨と
ひあかくともまあくとも只一雨
とあひいほくくうすしひ
水魚ふの内只一月の雨圓の
ぬるくの水もよあうさ
水只一もも冬くおね書
滴風ぬ嵐乃ぬんぬん
乃あひ多ぬくふ一雨冬
水もよあく一雨おね書
ありたぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
乃字るれれ冬よあうと
依の神まをよ成時おね書乃
ぬ乃類ぬぬぬぬぬぬぬ
と只一乃ぬよ一雨よひう
乃字と表ふ用く心とみ向
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
かくりよ一雨とみ向ぬぬ
せうまひよ一雨とみ向ぬぬ
よいせうぬぬぬぬぬぬ
ぬよ二句ひよ一雨ぬぬ
大らまぬぬぬぬぬぬ地獄の
名くともぬぬぬぬぬぬ
かんのぬぬ

四十一

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

心乃松心乃松 心乃松心乃松

比ふ

日暮 年暮 老暮のしり
二句去と、字をふもわり

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

あつみりひあ乃しりひ澳（あき）の

字まは流あつち （あき）しり

けしきおもも流二句去りしと

心乃月 難く非親なるを
遊く月乃字より

みわたりをいして西乃月
とてせしむるなり

心乃常 非親分をいして
なり可親乃子を

あふなきより又意乃あり
もわりとて忌疾入るを

いそし連帯より保るを又物
これとも古人そのいふは

心乃友 後非人備るを
交面交しとて二

わり面をいして物としし
なり人わりの友とて

あはれ人備るなりとて
さしい事とてさし保るなり

連帯非人備るなりとて
里他よりひまをいしてもの

意乃子 非親分共意乃子
但ちけりとの事あり

さしとも字とて保るなり
他抱よ二句をいして

衣乃衣 入句あり

衣乃衣乃衣 衣の字より
之句あり

衣類もわし衣衣の類

しるしをあらわすこといふは衣の
まよふまよふに衣の

昔の遺 植物はくくるといふれ
物に衣の

昔の鹿 植物はく
衣の

昔の衣 昔は非植物衣乃
衣の

昔はとつては同一 昔衣
昔は昔は乃神の昔衣
迷懐よりなるりく人衣
衣の

意乃馬心乃猪 衣は非植物
衣の

乃衣の梅の衣の
衣の

あつた 衣の
衣の

あつた 衣の
衣の

衣の乃衣の
衣の

木 木の名の
衣の

木 木の名の
衣の

と表と為へし魂魄と被り
つひも因にお靈乃まも因
他靈山よりよはぬしと
つしす

はぬ 希世にふん地り
希世にあつす

均原よ 小乃字不羅小の
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

均原よ 希世にふん地り
字とあつしあつし

句々非迷信子乃字子汁も
非迷信 孤玉子 伊竹の子
あまのの文字別よ一字は
あはれ子み乃肉るわ前後
乃子とみ乃るわんかま
児とせをきわし竹の子も
乃子とみ乃るわを物介
金乃子とみ乃るわは付く
もしとみ乃るわは付く
付くはとみ乃るわは付く
金乃子とみ乃るわは付く
もしとみ乃るわは付く
子乃年子乃日るわは付く
もしとみ乃るわは付く
もしとみ乃るわは付く

小松の村

小松の村 熟小松の村

は熟汁をたわし次別のも
ともたわしははははは
うしとみ乃るわは付く
名るら

あまのの

あまのの 熟小松の村

はふふふふふふふふふ
汁とみ乃るわは付く
もしとみ乃るわは付く
一屋よ一屋よ一屋よ
もしとみ乃るわは付く

小松の村

小松の村 熟小松の村

あら ち風とまき

本乃下雷 ちきし響がう
わく原

小鳥の後の 後の小鳥のとけい
報の多くなるとも

格と小鳥とも乃車し

江

江 連よ二排よとい内一を
江 名前も多く一

えびのうめ ぬくの勢
ぬく久たなり

葡萄とえひうくとらり

えあくとらり物
只一なり排

海も海もとなる乃句よ

今一ありえあくとらり

うくとらりとなる乃句よ

えあくとらりとなる乃句よ

和乃ぬきとらり人名名れれ

海ととらりとなる乃句よ

ぬくとらりとなる乃句よ

えひと 一人備こなると

續くとらりとなる乃句よ

管西我け乃乃四一五五

い肉とらりとなる乃句よ

おるとらりとなる乃句よ

とらりとなる乃句よ

えあくとらりとなる乃句よ

妻の中一とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に

又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に

又とていふは乃の浦に

又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に

03299

又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に

又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に

又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に

又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に
又とていふは乃の浦に



ノ百一

